

令和5年度麻薬取扱者等説明会



1. 麻薬の取扱いについて
2. 覚醒剤原料の取扱いについて
3. 向精神薬の取扱いについて

大分県福祉保健部薬務室

電子申請が可能な届出

麻薬及び向精神薬取締法関係申請ページ

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/sinnkidennsisinnseimayaku.html>

覚醒剤取締法関係申請ページ

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/sinnkidennsisinnseikakuseizai.html>

- 麻薬廃棄届
- 調剤済麻薬廃棄届
- 覚醒剤原料廃棄届出書
- 麻薬事故届
- 麻薬年間届

などの電子申請が可能です。



電子申請の利用にあたってのお知らせ

大分県の電子申請システムが変更します！

令和4年9月25日をもって「大分県電子申請システム総合窓口」による麻薬関係の電子申請の受付を終了します。

令和4年9月から新しい電子申請システム（スマート申請）による麻薬関係の電子申請にリニューアルします。新しい電子申請窓口は本ページの下部にあります。

スマート申請をするにはアカウント作成とログイン操作が必要となります。

新電子申請システムのアカウント作成方法については下記をクリックしてください。

[新電子申請システムアカウント作成方法](#)

新電子申請システムログイン方法については下記をクリックしてください。

[新電子申請システムログイン方法](#)

麻薬及び向精神薬取締法関係電子申請窓口

電子申請による届出の具体的な方法についてはこちら

 [電子申請の手引き \[PDFファイル/230KB\]](#)

本ページから電子申請が可能な届出

下記の麻薬関係電子申請が本ページから申請可能になります。

- [麻薬廃棄届](#)
- [調剤済麻薬廃棄届](#)

NEW

大分県では麻薬取扱者免許関連申請の一部を令和5年4月からオンライン化しました。

免許事務名称	オンライン化の方針	大分市内の麻薬業務所	大分県内(大分市を除く)の麻薬業務所
麻薬施用者・麻薬管理者・麻薬研究者免許申請(新規)	Grafferスマート申請システムを用いたオンライン申請	×(紙申請のみ)	○(オンライン申請可)
麻薬施用者・麻薬管理者・麻薬研究者免許申請(継続)	Grafferスマート申請システムを用いたオンライン申請	×(紙申請のみ)	○(オンライン申請可)
麻薬施用者・麻薬管理者・麻薬研究者免許証記載事項変更届	従来通り書面による届出	×	×
麻薬施用者・麻薬管理者・麻薬研究者免許証再交付申請	免許証を紛失した場合に限りオンライン申請可(免許証の汚損等の場合はオンライン申請不可)	×(紙申請のみ)	△(免許証を紛失した場合のみオンライン申請可)
麻薬施用者・麻薬管理者・麻薬研究者免許証廃止届(返納届)	従来通り書面による届出	×	×

※従来通り書面でも申請を受け付けています。

オンライン申請による麻薬取扱者免許申請について

- ・ 1度に最大20名分までオンライン申請可能です（麻薬研究者は10名まで）。
- ・ 手数料の支払い方法は、現在**クレジットカード**もしくは**コンビニ払い**のみ対応しています（×現金・納付通知書）。
 - ※領収書の発行はできませんのでご注意ください。
- ・ 診断書、免許証の写し等の添付書類は写真・スキャンデータ等のPDFファイル等を添付してください。
 - ※診断書の原本は、申請後に発行された免許証の有効期限内はお手元で保管をお願いします。施設への立入の際に提示を求められることがあります。
- ・ オンライン申請分の免許証は薬務室から直接麻薬業務所へ郵送します。（保健所への来所は不要です。）

本日の内容

1

- 麻薬の取扱いについて

2

- 覚醒剤原料の取扱いについて

3

- 向精神薬の取扱いについて

※麻薬管理マニュアル及び向精神薬、覚醒剤原料
取扱いの手引きで詳細は確認して下さい。

麻薬等関係のマニュアルについて

- ◆ 麻薬管理マニュアル
- ◆ 向精神薬取扱いの手引き
- ◆ 覚醒剤原料取扱いの手引き
- ◆ ケタミンの取扱い(質疑応答)

上記は薬務室のホームページに掲載しています。

(<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/mayakumanyuaru.html>)

大分県のHP→薬務室を検索→麻薬関係手続き案内 を参照

- ◆ 麻薬等関係質疑応答集
- ◆ 医療用麻薬適正使用ガイダンス

上記はインターネットで検索するとできます。

各様式について

薬務室のホームページに掲載しています。

◆ 麻薬及び向精神薬関係様式

(<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/mayakuyousiki.html>)

大分県のHP→薬務室を検索→麻薬関係手続き案内 を参照

◆ 覚醒剤取締法関係様式

(<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/kakugen.html>)

大分県のHP→薬務室を検索→覚醒剤関係手続き案内 を参照

1 麻薬の取扱いについて

麻薬及び向精神薬取締法

目的

麻薬の乱用による保健衛生上の危害を防止し、もって公共の福祉の増進を図ること

麻薬の一切の取扱いについて、その誤用や乱用による保健衛生上の危害を防止し、一方でその有益性を活用するため

- 免許又は許可により禁止の解除
- 麻薬の取扱いを医療上又は学術研究上に限定
- 流通を限定
- 適正使用を期するため、施用の制限、管理義務、保管義務、記録義務等を課している

1 免許

麻薬及び向精神薬取締法 第2条(用語の定義)

麻薬施用者	都道府県知事の免許を受けて、疾病の治療の目的で、 <u>業務上麻薬を施用し、若しくは施用のため交付し、又は麻薬を記載した処方せんを交付する者をいう。</u>	医師等 の 個人 に交付
麻薬管理者	都道府県知事の免許を受けて、麻薬診療施設で施用され、又は施用のため交付される <u>麻薬を業務上管理する者をいう。</u>	
麻薬研究者	都道府県知事の免許を受けて、 <u>学術研究のため</u> 、麻薬原料植物を栽培し、麻薬を製造し、又は麻薬、あへん若しくはけしがらを使用する者をいう。	
麻薬卸売業者	都道府県知事の免許を受けて、 <u>麻薬小売業者、麻薬診療施設の開設者又は麻薬研究施設の設置者に麻薬を譲り渡すことを業とする者をいう。</u>	事業者 に交付
麻薬小売業者	都道府県知事の免許を受けて、麻薬施用者の麻薬を記載した <u>処方せんにより調剤された麻薬を譲り渡すことを業とする者をいう。</u>	

1 免許

免許の有効期間

法改正により、平成28年4月1日から有効期間が2年から最長3年に延長

免許を受けた日から
翌々年の12月31日まで

【記載例】 6C○○○○



免許を受けた年号が記載されている。

免許証の期限は大丈夫ですか？

免許証には有効期限が記載されていますので確認を！

第 6C 号

麻薬施用者免許証

麻薬業務所

所在地 大分市〇〇町△△丁目□□番地

名称 大分病院

麻薬施用者又は麻薬研究者にあつては、従として診療又は研究に従事する麻薬診療施設又は麻薬研究施設

所在地 別府市〇〇町△△丁目□□番地

名称 別府診療所

所在地

名称

住所

氏名

A: 小売業者

B: 管理者

C: 施用者

D: 研究者

数字のみ: 卸売業者

兼務先でも麻薬を処方する場合は、従たる施設として免許証への兼務先の記載が必要

麻薬及び向精神薬取締法第3条第1項の規定により
免許を受けた麻薬施用者であることを証明する。

令和6年2月27日

大分県知事 佐藤 樹一郎

県知事印

有効期間 令和6年2月27日から
令和8年12月31日まで

1 免許

(1) 麻薬施用者

- 疾病の治療の目的で、業務上麻薬を施用し、若しくは施用のため交付し、又は麻薬を記載した処方せんを交付する者
- 医師、歯科医師、獣医師に限定
 - 施用する個人に限定した免許
 - 同一の施設で複数人が施用する場合は、それぞれ麻薬施用者免許が必要
 - 免許証に記載された施設でのみ施用可能

(2) 麻薬管理者

麻薬施用者の人数を常にチェック！特に麻薬施用者が1名→2名になったとき



- 麻薬診療施設で施用され、又は施用のため交付される麻薬を業務上管理する者
- 医師、歯科医師、獣医師、薬剤師に限定
 - 管理する個人に限定した免許
 - 同一の施設で複数の施用者がいる場合は、麻薬管理者が必要
 - 麻薬施用者が麻薬管理者を兼ねてもかまわない

※管理者免許は施用者免許ではない！

→麻薬を管理者番号で処方できない

(3) 麻薬小売業者

- 麻薬施用者の麻薬を記載した処方せんにより調剤された麻薬を譲り渡すことを業とする者
- 薬局で麻薬を調剤するために必要な免許



麻薬免許に係わる申請・届出

◆ 免許証記載事項変更届

氏名、現住所、施設の名称変更、追加、削除

◆ 再交付申請

き損し、又は亡失したとき

◆ 返納届

有効期間の満了、免許の取り消し等

◆ 業務廃止届

退職や県外へ転出等で有効期間内に麻薬業務の
廃止

注意

いずれも、15日以内に提出すること

麻薬施用者免許証

麻薬業務所	所在地	大分市〇〇町△△丁目□□番地
	名称	大分病院
麻薬施用者又は麻薬研究者にあっては、従として診療又は研究に従事する麻薬診療施設又は麻薬研究施設	所在地	別府市〇〇町△△丁目□□番地
	名称	別府診療所
	所在地	
	名称	
	住所	
	氏名	

麻薬及び向精神薬取締法第 3 条第 1 項の規定により
免許を受けた麻薬施用者であることを証明する。

令和 6 年 2 月 2 7 日

大分県知事 佐藤 樹一郎

県知事印

有効期間

令和 6 年 2 月 2 7 日から
令和 8 年 1 2 月 3 1 日まで

記載事項

- ・麻薬業務所(従たる施設を含む)
- ・住所
- ・氏名

に変更があった場合は

麻薬取扱者免許証記載事項変更届
が必要

※氏名変更の場合は戸籍事項証明書等の添付が必要です。

よくある事例

◆変更の届出忘れ(麻薬免許の記載事項変更)

- ・引っ越し、婚姻後の届出忘れ
- ・異動等で病院が変わった場合の手続き忘れ

◆異動時の麻薬免許の紛失

◆申請者、届出者等の名義間違い

- ・麻薬取扱者免許関係の申請・届出＝免許を所有する本人
- ・麻薬に関する届出等(譲受証、麻薬廃棄届、調剤済麻薬廃棄届など)
＝代表者

※代表者→施設の開設者(医療法人の場合は法人名+理事長名)
開設者が国、地方公共団体の場合は、施設の長(病院長名)
(記載例:医療法人〇〇会 理事長 大分 太郎)

- ・麻薬に関する届出(麻薬事故届、麻薬年間届)
＝麻薬管理者

麻薬の所有権については代表者、
麻薬の管理に関することは管理者

(麻薬管理者がいない場合は麻薬施用者)

注意

◆ 無免許施用について(法27条第1項)

- ・県外からの転勤や異動による麻薬施用者免許未取得状態で麻薬を施用
- ・免許の継続申請を行わず、免許の期限が切れた状態で麻薬を施用

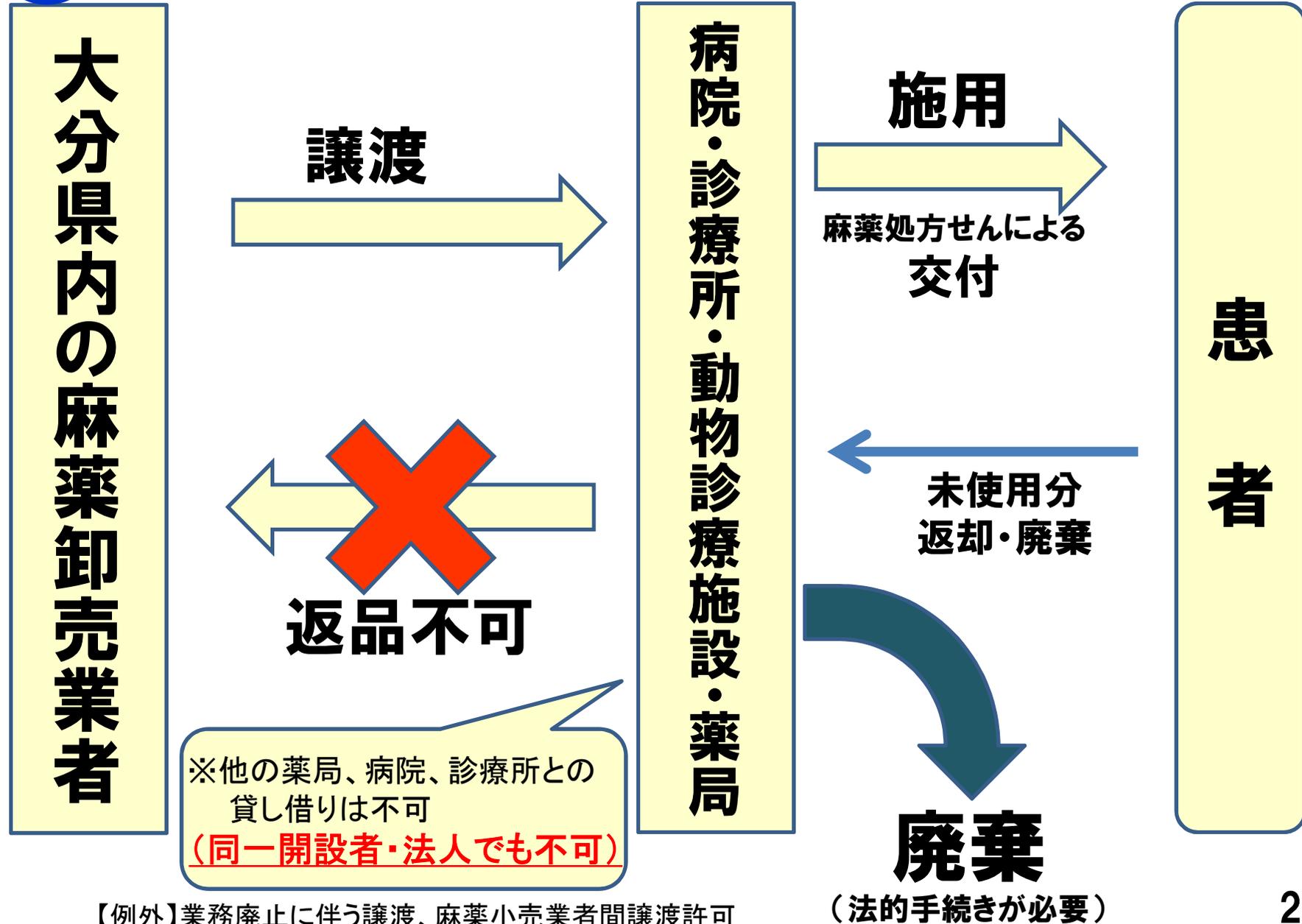
法違反

医師が書類送検された事例もあり！

施用者免許は医師等個人の免許なので、自身の免許の有効期限等にご注意下さい。

2

譲渡・譲受、施用、廃棄



譲渡し

【麻薬診療施設】

- 麻薬施用者が麻薬を施用し、又は麻薬を施用のため交付する場合を除き、麻薬診療施設の開設者が、麻薬を譲り渡す場合は、その都度**厚生労働大臣の許可**が必要
- 同一開設者が開設する麻薬診療施設間において麻薬を受渡しをする場合でも、**厚生労働大臣の許可**が必要

【麻薬小売業者】

- 麻薬小売業者は、麻薬処方箋の交付を受けた者に対し、その処方箋により調剤した麻薬を交付する以外に麻薬を譲渡することはできない。
- 麻薬卸売業者へ返品もできない。

譲受け(購入)の注意事項

- ◆ 県内の麻薬卸売業者から譲り受けること
- ◆ 譲り受ける際には、**譲渡証(麻薬卸売業者作成)**と**譲受証の交換**が必要
- ◆ **品名・数量・製品番号・現品の確認**
- ◆ 麻薬譲渡証の保存期間は**2年間**
- ◆ **麻薬帳簿に記録**
 - 「受入」の年月日は、麻薬卸売業者が作成した麻薬譲渡証に記載された年月日を記載
 - 麻薬譲渡証と麻薬の到着年月日が相違するときにも、麻薬譲渡証の日付けを受入年月日とし、備考欄に実際の到着年月日を記載
 - 購入元の麻薬卸売業者名及び購入した麻薬の製品番号を備考欄に記載

麻薬譲受証

例：医療機関【法人】 ※開設者の責任において作成すること

麻 薬 譲 受 証					令和〇〇年〇〇月〇〇日
譲受人の免許証の番号	第 号	譲受人の免許の種類			
譲受人の氏名(法人にあつては、名称)	医療法人〇〇会 △△病院 理事長 大分太郎				
譲受人が麻薬診療施設の開設者又は麻薬研究施設の設置者の場合は、当該施設において麻薬を管理する麻薬管理者、麻薬施用者、麻薬研究者	免許証番号	※現免許証の番号を書くこと 6B0000 (麻薬管理者免許証番号)	氏名	鈴木 管理  (※管理者の個人印)	
麻薬業務所	所在地	大分県大分市〇〇町〇丁目〇番〇号			
	名称	医療法人〇〇会 △△病院			
品名	容量	筒数	数量	備考	
オキシコンチンTR錠10mg ※正しい品名を書くこと	PTP 100T	1	100T		

譲受人の氏名：法人名(医療法人〇〇会 △△病院)、代表者職名(理事長)、代表者名(大分太郎)

譲受人の押印：代表者の印、もしくは麻薬専用印を使用

【麻薬専用印の例】

管理者の個人印は毎回同じ印を使用

◆ 麻薬専用印とは、法人名と「麻薬専用」もしくは「麻薬及び覚醒剤原料専用」の文字の入った印



麻薬譲受証

例：医療機関【個人】 ※開設者の責任において作成すること

麻 薬 譲 受 証					令和〇〇年〇〇月〇〇日
譲受人の免許証の番号		第 号	譲受人の免許の種類		
譲受人の氏名(法人にあつては、名称)		大分 宗麟 			
譲受人が麻薬診療施設の開設者又は麻薬研究施設の設置者の場合は、当該施設において麻薬を管理する麻薬管理者、麻薬施用者、麻薬研究者		免許証番号	※現免許証の番号を書くこと 6B0000 (麻薬管理者免許証番号)	氏名	佐藤 管理  (※管理者の個人印)
麻薬業務所	所在地	大分県大分市〇〇町〇丁目〇番〇号			
	名称	〇〇〇〇クリニック			
品名	容量	筒数	数量	備考	
オキシコンチンTR錠10mg ※正しい品名を書くこと	PTP 100T	1	100T		

譲受人の氏名：開設者(大分 宗麟)

譲受人の押印：開設者の個人印は **毎回同じ印を使用**

管理者の個人印は **毎回同じ印を使用**

推奨

麻薬の譲受の際に必要な応じて破損がないか確認してください。
(必ずしも確認する必要はありません)

破損を発見した場合

① 両者立会時

麻薬卸売業者が麻薬事故届提出

麻薬譲渡証・麻薬譲受証をそれぞれ返納



麻薬を箱ごと麻薬卸売業者が持ち帰る



麻薬卸売業者が麻薬事故届を提出

② ①以外

譲り受けた側が麻薬事故届を提出

◆ 麻薬業務廃止に必要な手続き

- 病院、診療所等の閉鎖、移転
- 麻薬の取扱いをやめる(麻薬施用者等が一人もいなくなる)
- 開設者の変更(個人→法人、法人→別法人等)
- 開設者である法人の解散

注意

➡ **残余麻薬届**

現に所有する麻薬の品名・数量を15日以内に届出

所有する麻薬が無くても提出が必要
「残余なし」で提出



◆ 麻薬業務廃止に伴う譲渡等

所有する麻薬がある場合

50日以内に下記のいずれかの方法で対応



残余麻薬

譲渡

県内の麻薬営業者(麻薬卸売業者、麻薬小売業者)
・麻薬診療施設の開設者・麻薬研究者に譲渡

※譲渡後15日以内に「**残余麻薬譲渡届**」

廃棄

予め管轄の保健所等に「**麻薬廃棄届**」を提出したうえで、保健所等職員の立会の下で廃棄

50日を超えると不法所持となることもあり



3

麻薬の管理・保管

- ◆ 麻薬は鍵をかけた堅固な設備内に保管
※机の引き出しやロッカーは保管庫として認めない。
- ◆ 麻薬専用の固定した金庫又は容易に移動できない金庫(重量金庫)で、施錠設備のあるもの
- ◆ 向精神薬や覚醒剤原料、毒薬等を決して一緒に保管しない
※麻向法第34条第2項:麻薬以外の医薬品(覚醒剤を除く)と区別

麻薬・覚醒剤以外のものが入っていないか？

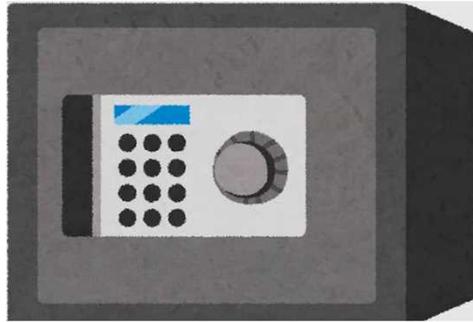
鍵の管理は十分行われているか？

盗難防止を考慮し、人目に付かず、関係者以外の出入りがない場所を選ぶことが望ましい。

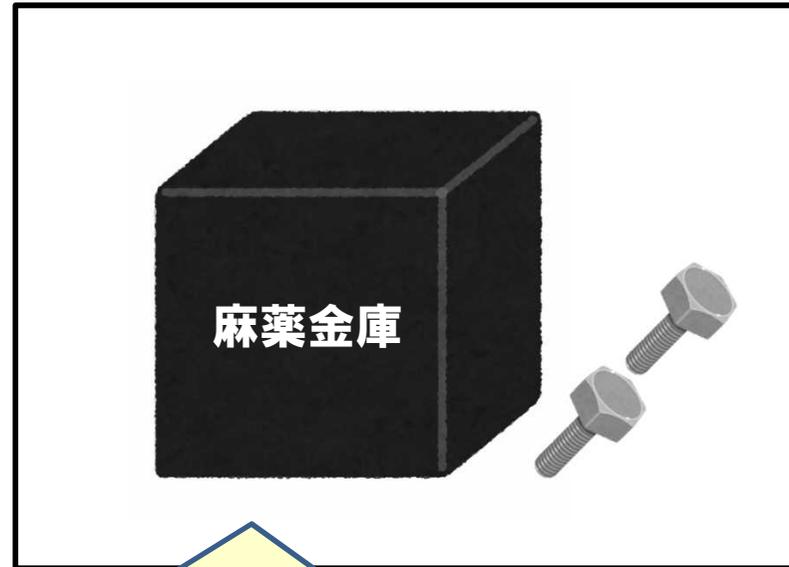
定期的に帳簿残高と在庫現品を照合(在庫確認)



麻薬保管庫



重量金庫



構造物等に固定した金庫
安易に持ち運べないもの



- ✓ 麻薬専用
- ✓ 金属製
- ✓ 鍵は2箇所以上が望ましい

※病棟や手術室で保管する際も金庫が必要

麻薬保管の不適切事例



麻薬の定数保管について

緊急に麻薬を施用する場所

・・・病棟・手術室・集中治療室等

定数保管する麻薬の種類・数量・・・必要最小限

定数保管する場所・・・麻薬保管庫を設置

※机の引き出しやロッカーは保管庫として認めない。

定数保管麻薬の管理

・・・特に休日・夜間時の鍵の管理

定数保管麻薬の管理責任・・・麻薬管理者

麻薬管理のポイント

在庫数

- 定期的に帳簿と照らし合わせ、在庫数を確認。

使用期限

- 在庫確認に合わせて使用期限を確認。

廃棄は慎重に

- 誤調製や誤調剤等、廃棄届を提出の上、立ち会いが必要な場合があります。

上記3点が適切に実施されておらず、実際に麻薬事故が発生しています。

麻薬事故の事例

◆ 麻薬の数が帳簿と合わない(実在庫が不足)

・特に貼付剤

書類の間に挟まりやすく、誤って空箱と一緒に廃棄してしまうなど、所在不明となるケースが多いので注意!

◆ 期限切れの麻薬を使用してしまった

・動きのない麻薬や定数配置には注意

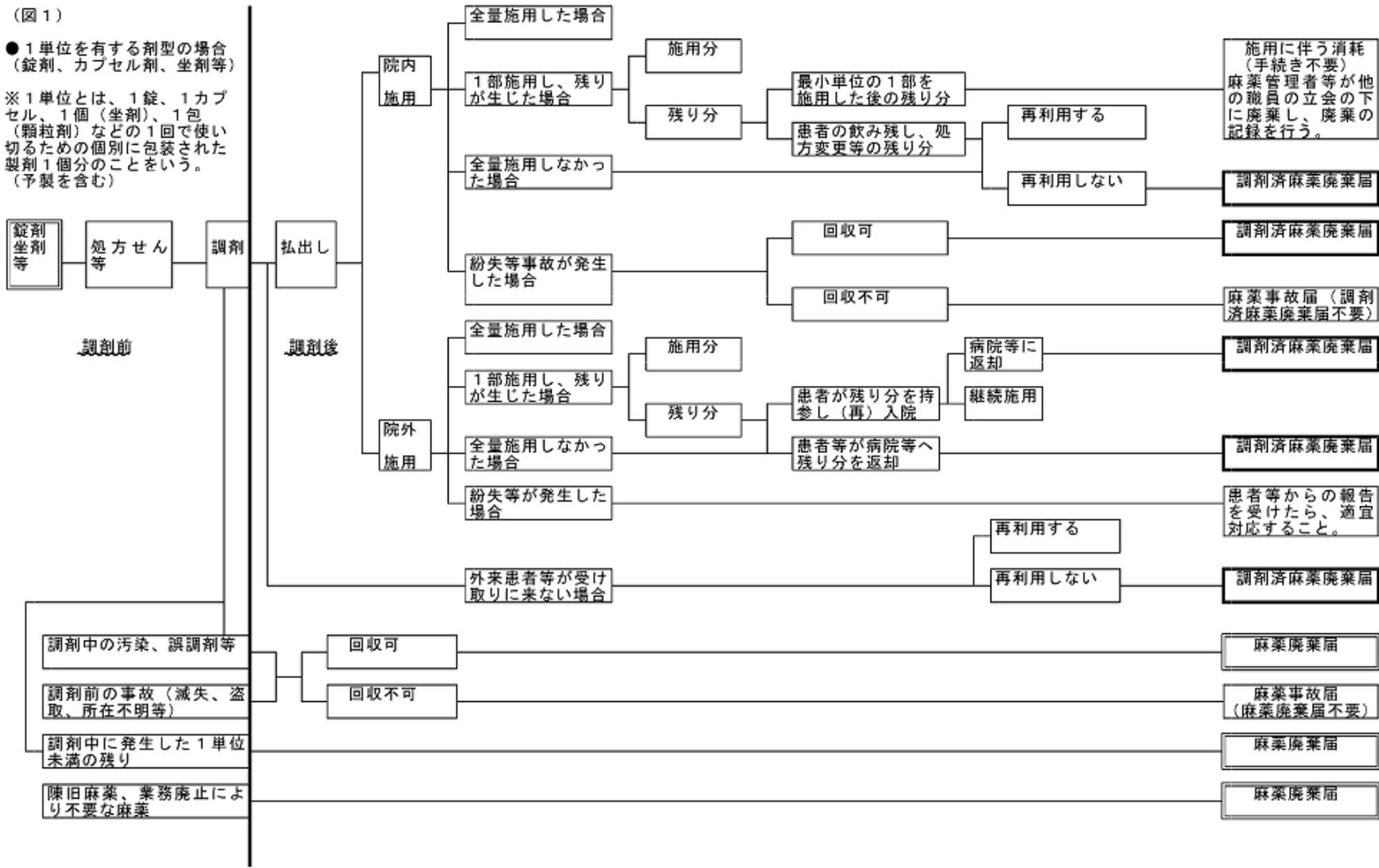
◆ 麻薬の無届廃棄

・誤調製、誤調剤等は**麻薬廃棄届**が必要

届出の要・不要が不明なときは、麻薬管理マニュアルのフロー 図を参考にしてください。

(図1)

● 1単位を有する剤型の場合
(錠剤、カプセル剤、坐剤等)
※ 1単位とは、1錠、1カプセル、1個(坐剤)、1包(顆粒剤)などの1回で使い切るための個別に包装された製剤1個分のことをいう。(予製を含む)



※麻薬管理マニュアルから抜粋

4

麻薬の施用・交付

- 施用残液のあるアンプル及び空アンプルは麻薬管理者に返納。

麻薬管理者に返納せずに廃棄しまうと**麻薬事故**となるケースもあります



◆入院患者の**持参麻薬の管理**について
[他の麻薬診療施設で処方を受けた麻薬]

- 入院後も当該患者に継続施用する場合は、**残高には加えず**、麻薬帳簿に「持参した患者の氏名」と「受け入れた麻薬の品名及び数量」を()**書き**で記載。
- 当該麻薬を継続施用せず受け入れた麻薬を廃棄する場合は、**残高には加えず**、元帳簿の備考欄若しくは補助簿(廃棄簿)に「患者の氏名」、「麻薬廃棄年月日及び調剤済麻薬廃棄届提出年月日」を記載し、立会者が記名押印又は署名すること。



5 麻薬処方箋

✓ 麻薬診療施設では麻薬施用者が記載

1. 患者の氏名、年齢(生年月日)
2. 患者住所
3. 麻薬の品名、分量、用法、用量、投薬日数
4. 有効期間
5. 発行年月日
6. 麻薬施用者の氏名、押印(署名)、麻薬施用者免許番号
7. 麻薬診療施設の名称、所在地

◆ 院内処方せんの場合には、上記2、4、7の事項を省略することができる

調剤済みの麻薬処方箋の保管

- ◆ 院外麻薬処方箋・・・**3年間**
(麻薬小売業者が保管)
- ◆ 院内麻薬処方箋・・・**2年間**
(麻薬管理者が保管)

施用数量の確認について

麻薬注射剤及び麻薬坐剤の場合には、麻薬管理者が**施用量や残余量を確認して麻薬帳簿に記載する必要がある**ため、院内麻薬処方箋を使つての麻薬管理者への請求には、施用量を確認することのできる複写式の**施用票を用いると便利**

6 診療録(カルテ)



麻薬診療施設では麻薬施用者が麻薬を施用し、又は施用のため交付したときは、医師法等に規定する診療録に次の事項を記載する必要があります。

- ①患者の氏名、性別、年齢、住所
- ②病名及び主症状
- ③麻薬の品名及び数量
- ④施用又は交付の年月日

診療録(カルテ)の記載にあたっての留意事項

- 医師処方欄及び処置欄に「麻薬の品名及び数量」を記載し、その下に朱線を引くか、「**麻**」を朱書き又は押印
(施用した麻薬の品名及び数量を記録した書面の添付でも可)
- 注射剤の数量の記載
A(アンプル)単位ではなく、実際に施用したmLを記入
- 継続して施用する麻薬の記載
Do記載せずに、麻薬の品名、数量を記載
- 診療録の保存期間
医師法第24条第2項等により5年間と規定
- 麻薬品名の記載
 - ◆局方名、一般名、商品名、簡略名で可
 - ◆英文の記載でも構わない
 - ◆複数規格の麻薬がある場合は、規格(塩モヒ注200mg等)まで記載

7 帳簿

麻薬診療施設は施設に帳簿を備え付け、以下の事項を記載する必要があります。

- ① 当該麻薬診療施設の開設者が譲り受けた麻薬の品名、数量及びその年月日
- ② 当該麻薬診療施設の開設者が廃棄した麻薬の品名、数量及びその年月日
- ③ 当該麻薬診療施設の開設者が譲り渡した麻薬（施用のため交付したコデイン、ジヒドロコデイン、エチルモルヒネ及びこれらの塩類を除く。）の品名、数量及びその年月日
- ④ 当該麻薬診療施設で施用した麻薬（コデイン、ジヒドロコデイン、エチルモルヒネ及びこれらの塩類を除く。）の品名、数量及びその年月日
- ⑤ 麻薬事故届を提出した場合は、届け出た麻薬の品名、数量及び事故年月日（届出年月日については備考欄に記載）

帳簿の記載にあたっての留意事項

- 品名、剤形、規格、濃度別に口座を設けて記載。
 - ✓ 麻薬の原末から、10%散を予製した場合には、10%散の口座を新たに作成して記載
- 帳簿の記載には、万年筆、サインペン、ボールペン等の字が消えないものを使用。
- 訂正は、訂正すべき事項を二本線等により判読可能なように抹消し、訂正印を押しその脇に正しい文字等を記載。
 - ✓ 修正液や修正テープは使用しない
- 帳簿の記載は、原則として、麻薬の受入れ又は払出しの都度行うこと。
- 麻薬注射剤の受入れ、払出しの記録は、アンプル単位で記載。
 - ✓ 麻薬注射剤の施用残液を廃棄した場合には、備考欄に廃棄数量をmL単位で記載し、立会者が署名又は記名押印

帳簿の記載にあたっての留意事項

- アヘンチンキ等の自然減量及びモルヒネ原末、倍散等の秤量誤差
→麻薬診療施設の場合は麻薬管理者(麻薬管理者のいない施設においては麻薬施用者)が、麻薬小売業者の場合は薬局開設者又は管理薬剤師が、他の職員の立会いのもとに確認のうえ、**帳簿にその旨を記載し、備考欄に立会者が署名又は記名押印。**
- リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデイン、塩酸エチルモルヒネの10%散(水)、1%散(水)
→受入れの数量、年月日を記載するのみで個々の払出しについては記載する必要はない。

帳簿の記載にあたっての留意事項(受入)

- 「受入」の年月日は、麻薬卸売業者が作成した麻薬譲渡証に記載された年月日を記載。
 - ✓ なお、麻薬譲渡証と麻薬の到着年月日が相違するときにも、麻薬譲渡証の日付けを受入年月日とし、備考欄に実際の到着年月日を記載
- 購入先の「麻薬卸売業者の氏名又は名称」及び「購入した麻薬の製品番号」を備考欄に記載。
- 外来患者に一旦交付された麻薬を患者又は患者の遺族等から譲り受けた場合には、廃棄の記録を記載。
 - ✓ 麻薬管理簿の補助簿(廃棄簿)を作成すると便利
 - ✓ 補助簿を作成しない場合には、元帳簿の受入欄に受入数量を()書きで記載し、残高には加えず、備考欄に「麻薬を譲り受けた相手の氏名」及び「廃棄年月日」、「調剤済麻薬廃棄届提出年月日」を記載し、廃棄の立会者が署名又は記名押印

帳簿の記載にあたっての留意事項(受入)

- 再入院、転入院により患者が持参した麻薬を引き続き施用する必要がある場合
 - ✓ 帳簿の受入欄に受入数量を()書きで記載し、残高には加えず、備考欄に麻薬を譲り受けた「患者の氏名」及び「入院後施用」の旨を記載
- 入院患者に調剤された麻薬の一部又は全部が施用されず残余が生じたとき
 - ✓ 病棟から返納された日をもって帳簿の受入欄に受入数量を()書きで記載
 - ✓ 受け入れた麻薬を廃棄する場合は、残高には加えず、備考欄に「患者の氏名」、「廃棄年月日」及び「調剤済麻薬廃棄届提出年月日」を記載し、立会者が署名又は記名押印
 - ✓ 受け入れた麻薬を再利用する場合は、受入欄の()書きに
* 印を付すとともに、受入数量を残高に加え、備考欄に「返納のあった患者の氏名」を記載

帳簿の記載にあたっての留意事項(払出)

- (麻薬診療施設)
麻薬を施用し、又は施用のため交付した「患者の氏名」又は「カルテNo」を備考欄に記載
- (麻薬小売業者)
麻薬処方箋により調剤した「患者の氏名」を備考欄に記載

品名	オキシコンチン錠10mg			単位	錠
年月日	受入	払出	残高	備考	
4.10.1			2000	前帳簿から繰り越し	
4.10.27		120	1880	高橋×子他4名(注1)	
4.11.1	(20)		1880	佐藤○子より返納、11/30廃棄 12/15調剤済麻薬廃棄届出 立会者署名○○(注2)	
4.12.2	※(10)		1890	高橋×夫より返納(注3)	
5.2.6	(18)		1890	外来鈴木○子の家族鈴木○夫の持込 2/6廃棄、2/8調剤済麻薬廃棄届出、 立会者署名(注2)	
5.2.7		125	1765	変質により廃棄、2/1麻薬廃棄届出 立会者 麻薬取締員○○(注4)	
5.2.8	(6)		1765	村田○夫持参入院後施用、2/9死亡 2/11 2錠廃棄 2/15 調剤済麻薬廃棄届出、 立会者署名○○(注5)	

前ページの注釈

(注1)患者数名に麻薬を払い出した場合

(注2)患者より返納を受けた麻薬を廃棄した場合

(注3)入院患者より返納を受けた麻薬を再利用する場合

(注4)廃棄届に基づき麻薬を廃棄する場合

(注5)外来患者が再入院、転院の際に持参した麻薬を引き続き患者に施用し、患者が途中で死亡した場合

補足：入院時に患者が持参した麻薬の帳簿の記載について

5.2.7		125	1765	変質により廃棄、2/1麻薬廃棄届出立会者 麻薬取締員〇〇
5.2.8	(6)		1765	△田〇夫持参 入院後3錠使用 2/15 退院(退院時3錠持ち帰る。)

残高には加えない

入院中に持参麻薬を使用した場合や、退院時に持ち帰った場合はその都度、その数量を帳簿の備考欄に追記するとわかりやすい。

品名	モルヒネ塩酸塩注射液10mg			単位	A (1ML)
年月日	受入	払出	残高	備考	
4.10.1			2	前帳簿から繰り越し	
4.10.1		1	1	佐藤 ○子 (施用残0.3mL廃棄済み) 立会者署名○○	
4.10.2	10		11	大分卸売(株)△△支店 製品番号○○-○○	
4.10.3		1	10	破損により流失 (10月4日事故届)	
4.10.4		1	9	○田 ○子	

麻薬譲渡証の日付を記入する。
譲渡証と麻薬の到着日が違う場合は、備考欄に
到着年月日を記入してください。

コンピューターによる帳簿管理

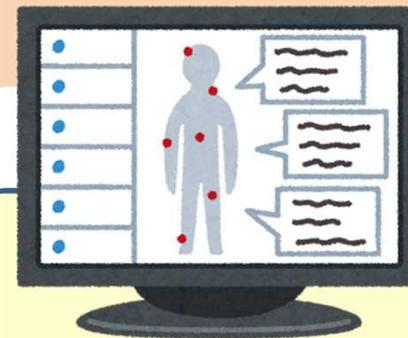
各施設に応じたデータ改ざん・破損防止対策を講じてください。

- ✓ 麻薬帳簿専用端末の設置
- ✓ ファイルのアクセス制限（パスワード設定など）
- ✓ 定期的なバックアップの実施

注意

出力された印刷物をもって帳簿とみなします。
定期的に印刷して保管してください。

電子カルテ使用時の注意



◆ アクセス権限の適切な管理

➤ パスワードの機密性維持・定期的変更

＜事例＞施用者免許を持たない医師が他の施用者権限で麻薬を処方した

◆ 麻薬処方箋の記載不備に注意

➤ 施用者の押印がない（署名または記名押印が必要）

➤ 免許番号の更新もれ

◆ 施用時の記録

➤ 施用記録が漏れやすいので注意

8

麻薬の廃棄



(1) 麻薬廃棄届

以下の麻薬を廃棄する場合

- 期限切れ麻薬
- 変質等により使用しない麻薬
- 調剤過誤により使えなくなった麻薬

予め「麻薬廃棄届」を管轄の保健所等へ提出

➡ 保健所等(大分市内は薬務室)の担当者
立会のもと廃棄

麻薬廃棄届

免許証の番号	○B○○○○号	免許年月日	令和○年○月○日
免許の種類	麻薬管理者	氏名	○○ ○○
麻薬業務所	所在地	大分市○○町○○丁目○番○号	
	名称	医療法人○○会 ○○病院	
廃棄しようとする麻薬	品名	MSコンチン錠10mg	数量
			54錠
廃棄の年月日	令和○年○月○○日(大分市内の場合は、届出時には廃棄年月日を記載する必要はない)		
廃棄の場所	病院薬剤部内		
廃棄の方法	粉碎後放流		
廃棄の理由	期限切れのため		
<p>上記のとおり、麻薬を廃棄したいので届け出ます。</p> <p>年 月 日</p> <p>医療法人 ○○会 ○○病院</p> <p>理事長 ○○ ○○</p> <p>大分県知事 殿</p>			

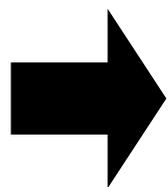
病院や診療所、薬局等の開設者の住所、氏名(法人にあっては主たる業務所の所在地及び名称を記入)を記載

(2) 調剤済麻薬廃棄届

以下の麻薬を廃棄する場合

- 入院患者に交付したが、患者死亡により必要がない
- 外来患者に交付したが、患者死亡により家族から届出
- 再入院時に持参した麻薬を施用する必要がなくなった

麻薬診療施設の場合は麻薬管理者(麻薬管理者のいない施設においては麻薬施用者)が、麻薬小売業者の場合は薬局開設者又は管理薬剤師が、他の職員の立会いのもと**廃棄し、帳簿に記載**。



廃棄後30日以内に「**調剤済麻薬廃棄届**」を
管轄の保健所等へ提出

30日以内であればその間の複数の廃棄をまとめてひとつの届出書で提出可



調剤済麻薬廃棄届

免許証の番号	○B○○○○号		免許年月日	令和○年○月○日	
免許の種類	麻薬管理者		氏名	○○ ○○	
麻薬業務所	所在地	大分市○○町○○丁目○番○号			
	名称	医療法人○○会 ○○病院			
廃棄した麻薬	品名	数量	廃棄年月日	患者の氏名	
	MSコンチン錠10mg	14錠	令和○年○月○日	○○○○	
廃棄の方法	粉碎後放流				
廃棄の理由	再入院により使用しなくなったため				
<p>上記のとおり、麻薬を廃棄したので届け出ます。</p> <p>年 月 日</p> <p>住所 大分市○○町○○丁目○番○号</p> <p>氏名 医療法人○○会 ○○病院</p> <p>理事長 ○○ ○○</p>					
大分県知事			殿		

病院や診療所、薬局等の開設者の住所、氏名(法人にあつては主たる業務書の所在地及び名称を記入)を記載

(3) 麻薬注射液の施用残の廃棄[麻薬診療施設]

麻薬注射剤の施用残液及びIVH(中心静脈への点滴注射)に麻薬注射剤を注入して用いたものの残液

- 届出の必要はない
- 麻薬管理者(麻薬管理者のいない施設においては麻薬施用者)が、麻薬診療施設の他の職員1名以上の立会いのもとに放流等の適切な方法で廃棄
- 麻薬帳簿の麻薬注射剤を払出したときの備考欄に「廃棄数量」を記載し、立会者の署名又は記名押印

麻薬の廃棄にあたっての留意事項

調剤中の事故等の場合、麻薬事故届もしくは麻薬廃棄届を提出する必要があります。

医療機関及び薬局については各麻薬管理マニュアルの別添フロー図で確認を行い、**わからなければ必ず管轄の保健所等に問い合わせること。**

ケタミン(ケタラール)の廃棄について

□ 平成19年から麻薬に指定

注意点:ケタミンの取扱い(質疑応答)と麻薬関係質疑応答集から

ケタミンの取扱い(質疑応答)7. 廃棄 から

Q7-1 バイアルに入っているケタミンを、一定期間、複数の患者(患畜)に施用していたところ、残りわずかとなったため、残液を廃棄したいのですが、どのような手続が必要ですか。

A.バイアル入りのケタミンについては、施用のために一部を取り出した後の残液を廃棄する場合、施用残として、麻薬管理者(麻薬管理者がいない場合は麻薬施用者)が他の職員の立会いの下で廃棄し、当該ケタミンの払出しを記載した麻薬帳簿の備考欄に廃棄した数量を記載してください。なお、施用残のケタミン注射液は「施用に伴う消耗」と解されますので、「麻薬廃棄届」又は「調剤済麻薬廃棄届」を提出する必要はありません。また、麻薬研究者が同様に残液を「廃液」として、他の職員の立会いの下で廃棄した場合、当該ケタミンの払出しを記載した麻薬帳簿の備考欄に廃棄した数量を記載してください。

無届廃棄とならないように注意を!

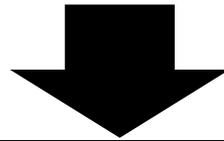
麻薬関係質疑応答集(10)廃棄 から

Q156. バイアル入りケタミンを分注した残液が、まだ、再利用できる量と判断し麻薬帳簿に残量を記載しました。しかし、その後使用見込みがしばらくないことから廃棄することとしましたが、どのような手続きで廃棄すればよいですか。

A.麻薬帳簿に受け入れた後に廃棄するのであれば、事前に都道府県知事に麻薬廃棄届を提出し適正な手続きにより廃棄してください。

9 麻薬の事故届

管理している麻薬の**滅失、盗取、破損、流出、所在不明**等の事故が発生した場合



すみやかに「**麻薬事故届**」を提出

- ◆ 麻薬診療施設の場合は**麻薬管理者**(麻薬管理者のいない施設においては**麻薬施用者**)が、麻薬小売業者の場合は**開設者**が提出
- ◆ 麻薬の品名・規格・数量(mLやg等で記載)
- ◆ 事故の状況を詳細に記載(5W1H)
- ◆ 麻薬帳簿の備考欄に麻薬事故届を提出した旨記載し、麻薬事故届の写しを保管

盗取の場合は**速やかに警察署**へも届出

アンプル注射剤の破損等による流出事故

一部回収した麻薬については、医療上再利用できないため、本来回収できた麻薬とは認められない。



事故及び経過を詳細に記載した「麻薬事故届」を提出することで、あらためて麻薬廃棄届や調剤済麻薬廃棄届の提出は必要ありません。

（回収量は必ず記載）

麻薬事故届

免許証の番号	〇B〇〇〇〇	免許年月日	令和〇年〇月〇日
免許の種類	麻薬管理者 (※管理者がいない(1人施用者のみ)場合は「麻薬施用者」)		
麻薬業務所	所在地	大分市〇〇町〇丁目〇番地〇号	
	名称	医療法人 〇〇会 〇〇クリニック	
事故が生じた麻薬	品名	数量	
	ペチジン塩酸塩注射液35mg	1A	
事故発生年月日 場所、事故の種類	〇月〇日、内視鏡検査時に看護師〇〇〇〇が医師〇〇〇〇にペチジン注射液を手渡すときに、誤って滑らせて破損した。1mL回収し、薬剤部の流しに麻薬管理者〇〇〇〇、医師〇〇〇〇立ち会いの下廃棄した。		
上記のとおり、事故が発生したので届け出ます。			
<p>回収できた量を必ず記載すること</p> <p>業務所の住所を記載せず、→ 麻薬免許証の住所を記載する</p>			令和〇年〇月〇日
住所 大分市〇〇町〇丁目〇番地〇号		氏名 〇〇 〇〇	
大分県知事 殿		<p>麻薬管理者の個人名 (1人施用者なら施用者のもの)</p>	

◆麻薬事故届等の記載方法について

わかりやすく簡潔に記載して下さい。

※事故の内容によっては、九州厚生局の麻薬取締部まで報告が必要となる場合があります。

- ✓ いつ？
- ✓ 誰が？
- ✓ どこで？
- ✓ 何を？
- ✓ どのようにした時に？
- ✓ どうなったのか？（破損、流出、盗取、所在不明、その他）
- ✓ 回収できた麻薬の量は？
- ✓ 事故麻薬の廃棄は、いつ？どこで？誰が？
- ✓ 他の誰の立合で廃棄したか？

【記載例】

令和〇〇年〇月〇日、内視鏡検査時に看護師〇〇〇〇が医師〇〇〇〇にペチジン注射液を手渡すときに、誤って滑らせて床に落下させアンプルを破損した。注射器等で1mL回収し、その他はティッシュ等で拭き取った。

事故発生と同じ日に薬剤部の流しで、麻薬管理者〇〇〇〇、医師〇〇〇〇立ち会いの下、放流し廃棄した。

10 麻薬の年間報告

※麻薬以外のものは
報告に記載しないこと！

- 毎年10月1日～翌年9月30日までの麻薬
取扱量を11月30日までに報告
- 1年間使用しなかった麻薬についても報告
- 所有する麻薬がなくても報告

- ・年間報告の作成時は所有している麻薬について、実際の在庫数量と帳簿上の在庫数量が一致していることを必ず確認。
- ・前年度報告の9月30日在庫数量と10月1日在庫量が合っているか確認



麻薬取扱者免許取得後の注意事項について

免許取得後、下記の変更等があった際は、届出・新たな申請が必要になります。

○病院・診療所・動物診療施設について

例①病院・診療所・動物診療施設の移転・名称変更・廃止

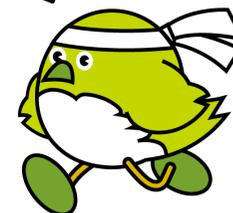
例②開設者の変更

個人から法人、法人から別法人 等

例③麻薬施用者が1名から2名以上になる

例④麻薬を使用しない(麻薬施用者が1名もいない)

その他にも
必要な場合が
あります！

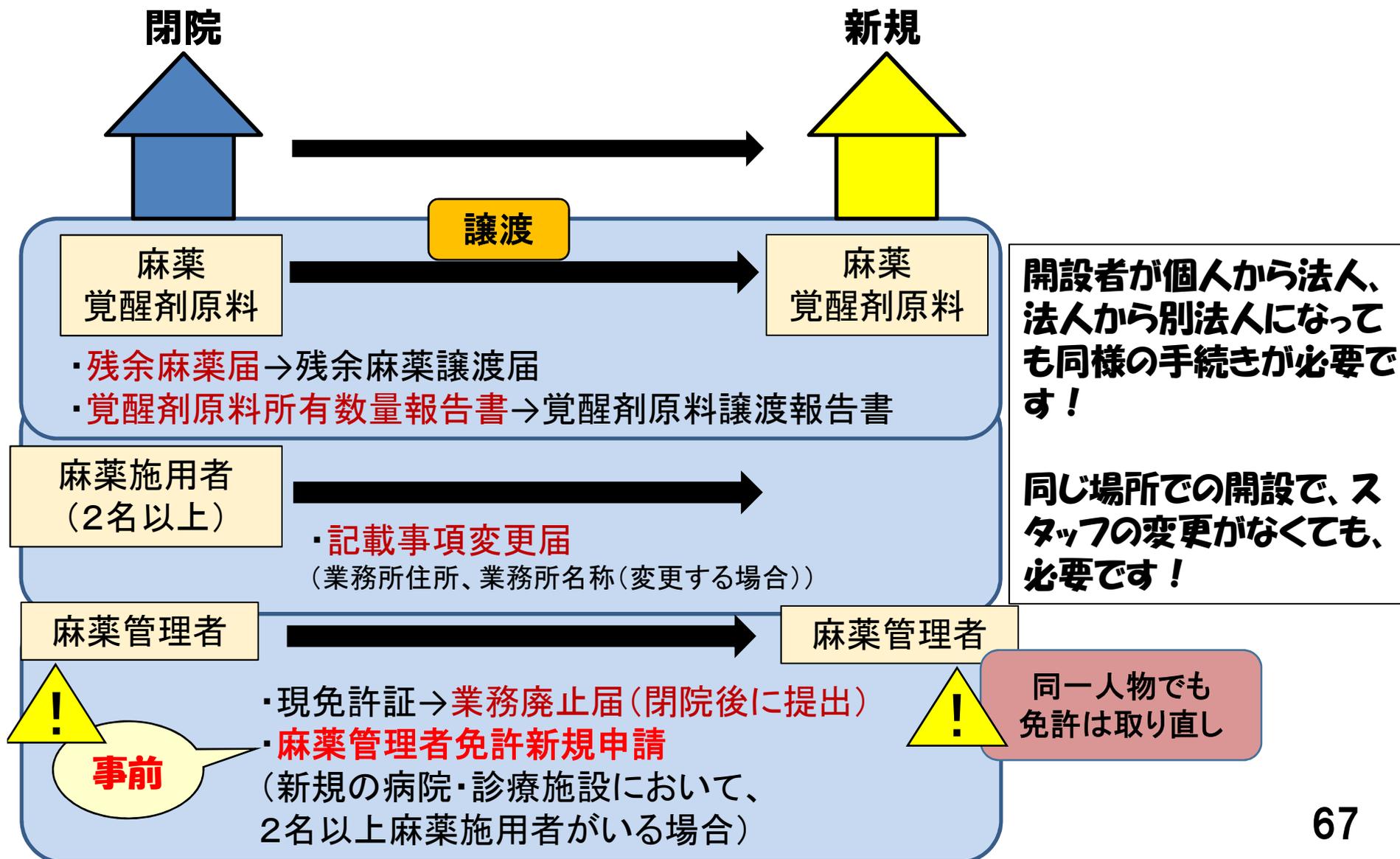


➡ このような場合、保健所(部)へ届出・申請が必要になります。

※覚醒剤原料についての届出が必要になる場合もあります！

事前申請が必要な場合もあるので、**麻薬・覚醒剤原料**についての不明点は、**変更発生前(1ヶ月前目安)まで**に管轄の保健所(部)に連絡してください！

例：病院・診療施設を移転する際に必要な申請等 （麻薬施用者免許がある場合）



2 覚醒剤原料の取扱いについて

1 医薬品である覚醒剤原料

現在、医薬品の製造販売承認されているものには、次のものがあります。

法律の規定名	別名	商品名	濃度規制	規定条項
N・ α -ジメチル-N-2-プロピニルフェネチルアミン	セレギリン、デプレニル	セレギリン塩酸塩錠(2.5mg) エフピーOD錠2.5	なし	覚醒剤原料を指定する政令第1号
2, 6-ジアミノ-N-(1-フェニルプロパン-2-イル)ヘキサンアミド	リスデキサロンフェタミン	ビバンセカプセル20mg及び30mg	なし	覚醒剤原料を指定する政令第3号

※以下の物質は覚醒剤原料として指定されているが、国内承認品はいずれも濃度規制の含有量以下のため、覚醒剤原料から除外されている。

【含有量10%以下であれば除外されるもの】

○1-フェニル-2-メチルアミノプロパノール-1(エフェドリン)〈法別表第1号〉

○1-フェニル-2-ジメチルアミノプロパノール-1(メチルエフェドリン)〈法別表第3号〉

【含有量50%以下であれば除外されるもの】

○エリトロ-2-アミノ-1-フェニルプロパン-1-オール

(ノルエフェドリン、フェニルプロパノールアミン)〈覚醒剤原料を指定する政令第2号〉

2

覚醒剤原料取扱者

- 病院等や薬局において、医薬品である覚醒剤原料を、医師、歯科医師等が**施用のために交付する場合**や薬局の薬剤師が**医師の処方箋に基づき調剤した医薬品**である覚醒剤原料を譲り渡す場合には、**覚醒剤原料取扱者等の指定は不要**。
- 覚醒剤原料に該当する薬局製剤を製造する場合には、「覚醒剤原料製造業者」の指定が必要。
- 覚醒剤原料を使用して覚醒剤原料に該当しない薬局製剤を製造する場合は、「覚醒剤原料取扱者」の指定が必要。

覚醒剤取締法改正について

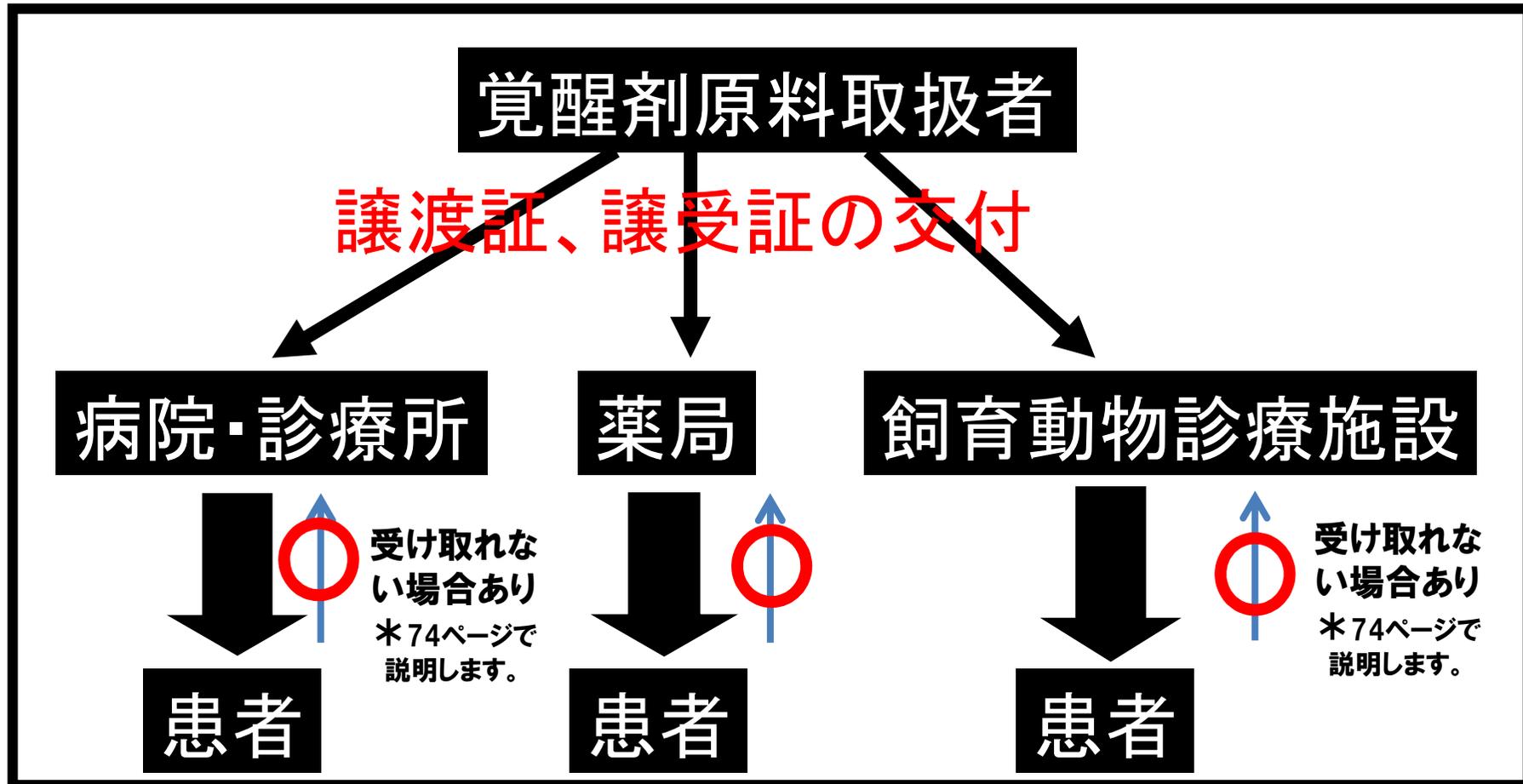
1. 「覚せい剤」→「覚醒剤」に変更
2. 自己疾患の治療目的で医薬品である覚醒剤原料を携帯して輸入又は輸出が可能に（厚生労働大臣の許可が必要）
3. 医薬品である覚醒剤原料を相続した等の場合に、当該医薬品である覚醒剤原料を薬局、病院等に譲渡することができるように

詳しく説明

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律等の一部を改正する法律の公布について（令和元年12月4日発薬生発1204第1号）

3

譲渡・譲受



譲渡証等の保存・・・2年間

譲渡証

(覚醒剤原料取扱者用)

覚醒剤原料譲渡証

記載例 出庫年月日を記載

譲渡年月日 令和4年2月25日

譲渡人 施設の所在地 大分県〇〇市××

施設の名称 株式会社業務室薬品 大分支店

氏名(法人にあっては、名称) 株式会社業務室 代表者印もしくは覚醒剤原料専用印を押印

代表取締役 大分太郎 代表者印
公印

法人の名称と代表者職名を記載

指定の種類	覚醒剤原料取扱者			
指定番号	第〇-〇号			
譲受人	所在地	大分県〇〇市△△		
	名称	医療法人 県庁病院 理事長〇〇		
品名	容量	個数	数量	備考
セレギリン塩酸塩錠 25mg	25mg × 100錠	2	200錠	〇〇-〇〇
空欄には斜線を引くか「以下余白」の文字を挿入				

備考

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 4 番とすること。
- 2 氏名欄は、法人の場合、法人の名称及び代表者の職名、氏名を記載すること。
- 3 氏名欄の押印は、法人の場合、個人印は不可とし、代表者印または公印、若しくは公印に準じるもの(覚醒剤原料専用印等)を押印すること。
- 4 品名欄の余白(空欄)には、斜線を引くか、「以下余白」等の文字を記載すること。

譲受証

(診療施設・薬局用)

覚醒剤原料譲受証

記載例 注文年月日を記載

譲受年月日 令和4年2月25日

譲受人 施設の所在地 大分県〇〇市△△

施設の名称 医療法人県庁会 県庁病院

氏名(法人にあっては、名称) 医療法人県庁会 代表者印もしくは覚醒剤原料専用印を押印

理事長 〇〇 代表者印
公印

法人の名称と代表者職名を記載

譲渡人	所在地	大分県〇〇市××		
	名称	株式会社業務室薬品 大分支店		
使用の目的	患者の治療のため			
品名	容量	個数	数量	備考
セレギリン塩酸塩錠 25mg	25mg × 100錠	2	200錠	〇〇-〇〇
空欄には斜線を引くか「以下余白」の文字を挿入				

備考

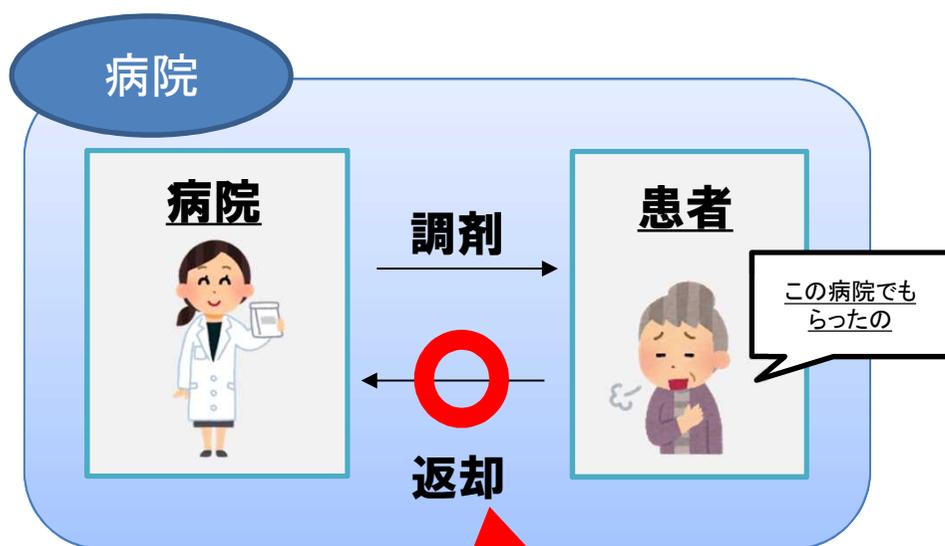
- 1 用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 4 番とすること。
- 2 氏名欄は、法人の場合、法人の名称及び代表者の職名、氏名を記載すること。
- 3 氏名欄の押印は、法人の場合、個人印は不可とし、代表者印または公印、若しくは公印に準じるもの(覚醒剤原料専用印等)を押印すること。
- 4 品名欄の余白(空欄)には、斜線を引くか、「以下余白」等の文字を記載すること。

譲渡・譲受日から**2年間**保存

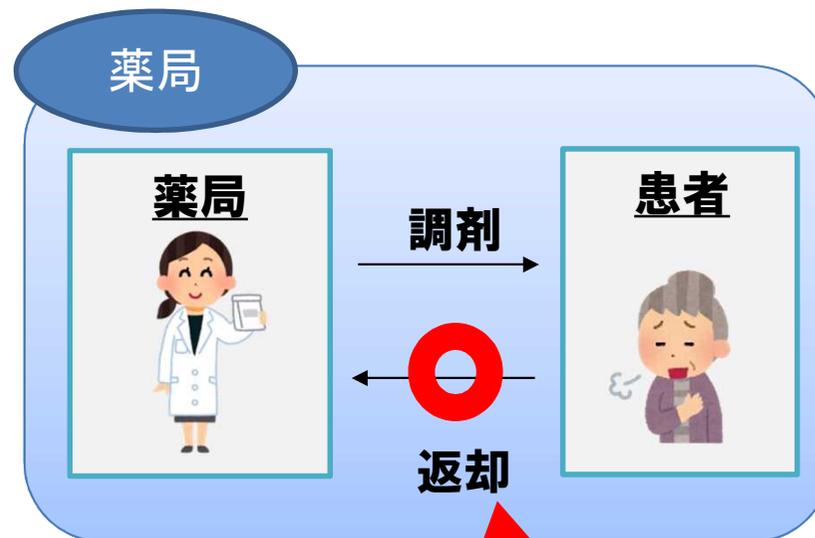
3 譲渡・譲受

調剤済みの医薬品である覚醒剤原料の医療機関・薬局における取扱い等について見直し

- 患者、その相続人等から医療機関、薬局へ返却可能とする
(法第三十条の九第一項六号)



当該病院で医師等が
交付したものに限り



どこの病院、薬局等で交付
されたものでも、譲り受け可

覚醒剤取締法改正について

法改正に伴う届出の追加

覚醒剤原料を譲受した際に届出が必要

(法第三十条の十四第三項)

届出書類

交付又は調剤済みの医薬品である覚醒剤原料譲受届出書

・患者等からの返却や患者死亡等による返却を受けた際に、譲受先が届出を行う。



麻薬とは異なるので注意！

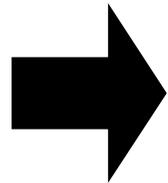
交付又は調剤済みの医薬品である覚醒剤原料譲受届出書		
覚醒剤取締法第30条の9第1項第6号の規定により交付又は調剤済みの医薬品である覚醒剤原料を譲り受けたことを同法第30条の14第3項の規定により届け出ます。		
年 月 日		
都 道 府 県 知 事 殿		住 所 氏 名
譲り渡した者の氏名		
譲り受けた医薬品である覚醒剤原料	品 名	数 量
譲り受けた施設の所在地及び名称		
譲り受けた日時		
譲り受けた場所		
譲り受けた事由		
廃棄の日時(予定)		
廃棄の場所(予定)		
廃棄の方法(予定)		
参 考 事 項		
備考		
1 用紙の大きさは、A4とすること。		
2 字は、墨又はインクを用い、楷書ではつきり書くこと。		
3 申請者が法人の場合は、氏名欄には、その名称及び代表者の氏名を記載すること。ただし、国の開設する病院又は診療所にあつては、その管理者の氏名を、国の開設する飼育動物診療施設にあつては開設者の指定する職員の氏名を記載すること。		
4 譲り受けた医薬品である覚醒剤原料の品名及び数量欄には、日本薬局方医薬品にあつては日本薬局方に定められた名称及びその数量を、その他にあつては一般的名称及びその数量を記載すること。		

4 廃棄

以下の医薬品である覚醒剤原料を廃棄する場合

- 期限切れ
- 変質等により使用しない
- 調剤中に発生した残り(例: 1錠を半分に割り残った半錠)

予め「覚醒剤原料廃棄届出書」を管轄の保健所等へ提出



保健所等(大分市内は薬務室)の担当者立会のもと廃棄

覚醒剤原料廃棄届出書

覚醒剤取締法第30条の13の規定により覚醒剤原料の廃棄を届け出ます。

令和〇〇年〇〇月〇〇日

住 所 大分市〇〇町〇丁目〇番〇号
氏 名 医療法人 〇〇会 〇〇病院
代表者 〇〇 〇〇

大分県知事 殿

廃棄しようとする覚醒剤原料の品目及び数量	エフピーOD錠2.5 56錠
廃棄の日時	令和〇年〇〇月〇〇日
廃棄の場所	〇〇病院薬剤部
廃棄の理由	期限切れのため
参考事項	

覚醒剤原料の廃棄にあたっての注意事項

調剤済の覚醒剤原料については、都道府県職員の立会いなしに廃棄可能とする(法第三十条の十四第二項)

病院・薬局等の開設者は、他の職員の立ち合いのもとに廃棄してください。

- ① 患者が不要になり、患者から譲り受けた場合
- ② 患者の死亡により相続人等から譲り受けた場合
- ③ 再入院、転入院の際に患者が持参し、施用する必要がなくなった場合

(ただし、病院の場合は、**自らの病院で交付したものに限り**ます。そうでない場合は患者自らが廃棄するよう指導してください。患者自らが廃棄することを補助することは差し支えありません)

覚醒剤取締法改正について

法改正に伴う届出の追加

②調剤した覚醒剤原料を 廃棄した場合、届出が必要 (法第三十条の十四第二項)

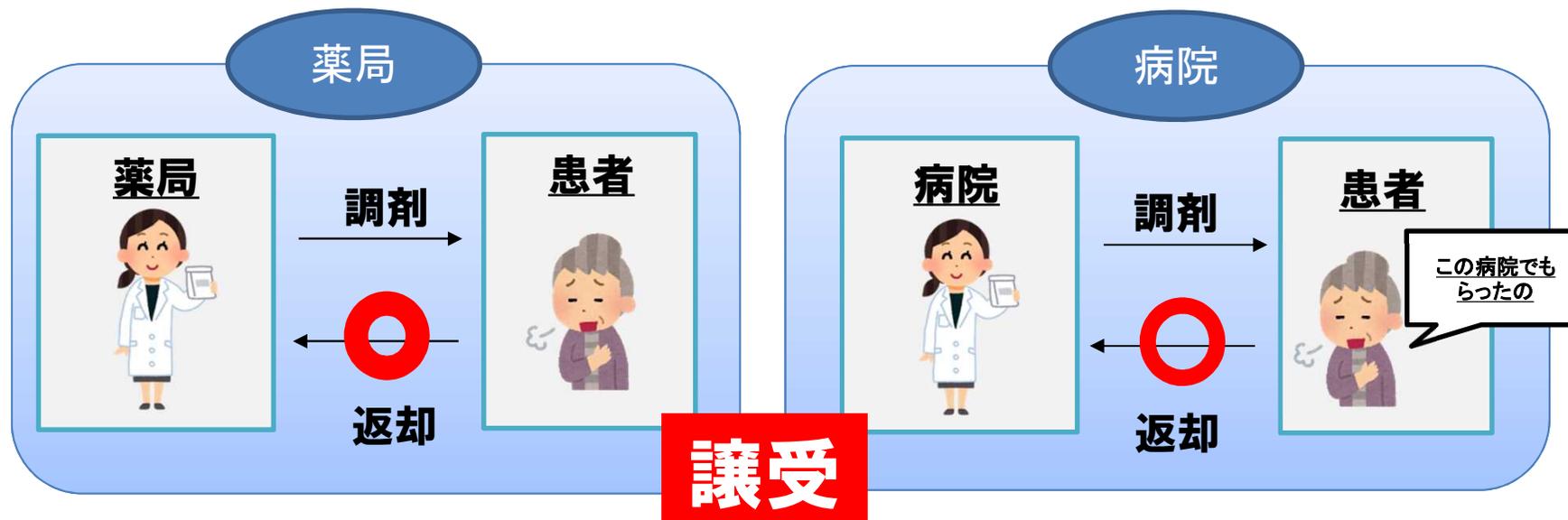
届出書類

交付又は調剤済みの医薬品である覚醒剤原料廃棄届出書

- ・患者等からの返却分廃棄、処方変更、患者死亡等による不要化等

調剤済麻薬廃棄届と同様

交付又は調剤済みの医薬品である覚醒剤原料廃棄届出書		
覚醒剤取締法第 30 条の 14 第 2 項の規定により交付又は調剤済みの医薬品である覚醒剤原料を廃棄したことを届け出ます。		
年 月 日		
		住 所
		氏 名
都 道 府 県 知 事 殿		
廃棄した医薬品である覚醒剤原料	品 名	数 量
廃棄を行った施設の所在地及び名称		
廃 棄 の 日 時		
廃 棄 の 場 所		
廃 棄 の 方 法		
廃 棄 の 事 由		
参 考 事 項		
備考		
1 用紙の大きさは、A 4 とすること。		
2 字は、墨又はインクを用い、楷書ではつきり書くこと。		
3 届出者が法人の場合は、氏名欄には、その名称及び代表者の氏名を記載すること。ただし、国の開設する病院又は診療所にあつては、その管理者の氏名を、国の開設する飼育動物診療施設にあつては開設者の指定する職員の氏名を記載すること。		
4 廃棄した医薬品である覚醒剤原料の品名及び数量欄には、日本薬局方医薬品にあつては日本薬局方に定められた名称及びその数量を、その他にあつては一般的名称及びその数量を記載すること。		



交付又は調剤済みの医薬品である
覚醒剤原料譲受届出書

速やかに提出

処方変更等

交付又は調剤済みの医薬品である
覚醒剤原料廃棄届出書

廃棄後、
30日以内に提出

5

保管・管理

- 覚醒剤原料は、**鍵をかけた場所**で保管
- ロッカー・金庫等を使用する場合
 - ① 保管庫は**容易に破られない材質**のものであり、かつ**堅固な錠**が付いていること。
 - ② 保管庫が容易に持ち運びできる場合にあっては床にボルト等により**固定**。
 - ③ 保管庫は、できるだけ**人目に付かない場所**であつて、**施錠設備のある室内**に設置。

※1 病院等の病棟での保管でも同様の設備が必要

※2 保管庫は、覚醒剤原料専用とすることが望ましい。

ただし、専用保管庫でない場合には他のものと区別して保管。

※3 麻薬保管庫には一緒に保管できない。

6 記録

病院、診療所や薬局等の開設者は施設ごとに帳簿を備えなければなりません。

記載事項

※最終記載日から2年間保存

- ① 当該施設の開設者が譲渡・譲受した覚醒剤原料の品名、数量及びその年月日
- ② 当該施設等で施用した覚醒剤原料の品名、数量及びその年月日
- ③ 当該施設の開設者が廃棄した覚醒剤原料の品名、数量及びその年月日
- ④ 事故届を提出した場合は、届け出た覚醒剤原料の品名、数量及び事故年月日

7 事故届

所有する医薬品である覚醒剤原料に**喪失、盗難、所在不明**等の事故が発生した場合



すみやかに「**覚醒剤原料事故届出書**」を提出

◆ **開設者が提出**

◆ **事故の状況を詳細に記載 (5W1H)**

盗取の場合は**速やかに警察署**へも届出

8 業務廃止等

病院、診療所、飼育動物診療施設、薬局等の
廃止、移転、開設者変更（個人→法人、法人から
別法人等）

➡ 「業務廃止等に伴う覚醒剤剤原料
所有数量報告書」

現に所有する医薬品である覚醒剤原料の品名・
数量を15日以内に提出

現に覚醒剤原料がない場合にあっても、不法所持に至らしめないように覚醒剤原料を所持していないことを確認する必要があるので、その旨を報告



所有する医薬品である覚醒剤原料がある場合 下記のいずれかの方法で対応



覚醒剤原料

譲渡（業務廃止等から30日以内）

覚醒剤原料取扱者・病院・診療所・飼育
動物診療施設・薬局開設者に譲渡

※譲渡後「**業務廃止等に伴う覚醒剤原料
譲渡報告書**」を提出

廃棄

予め管轄の保健所等に
「**業務廃止等に伴う覚醒剤原料処分願出
書**」を提出したうえで、
保健所等職員の立会の下で廃棄

3 向精神薬の取扱いについて

第1種及び第2種向精神薬

※麻薬・向精神薬・覚醒剤管理ハンドブック第11版から

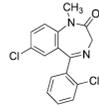
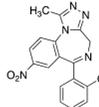
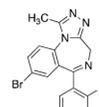
一般的名称	左欄に掲げる成分を含有する 製剤の主な名称
セコバルビタール	アイオナール
メチルフェニデート	リタリン、コンサータ
モダフィニル	モディオダール
アモバルビタール	イソミタール
ブプレノルフィン	レペタン、ノルスパンテープ
フルニトラゼパム	サイレース
ペンタゾシン	ソセゴン
ペントバルビタール	ラボナ

新たに向精神薬に指定されました

物質名	分類	
レミマゾラム	第3種 向精神薬	全身麻酔の導入及び維持を目的とした注射剤として医薬品の製造販売承認が申請されている物質

◎麻薬、麻薬原料植物、向精神薬及び麻薬向精神薬原料を指定する政令の一部を改正する政令の施行について (令和元年政令第191号)

施行日:令和2年1月17日

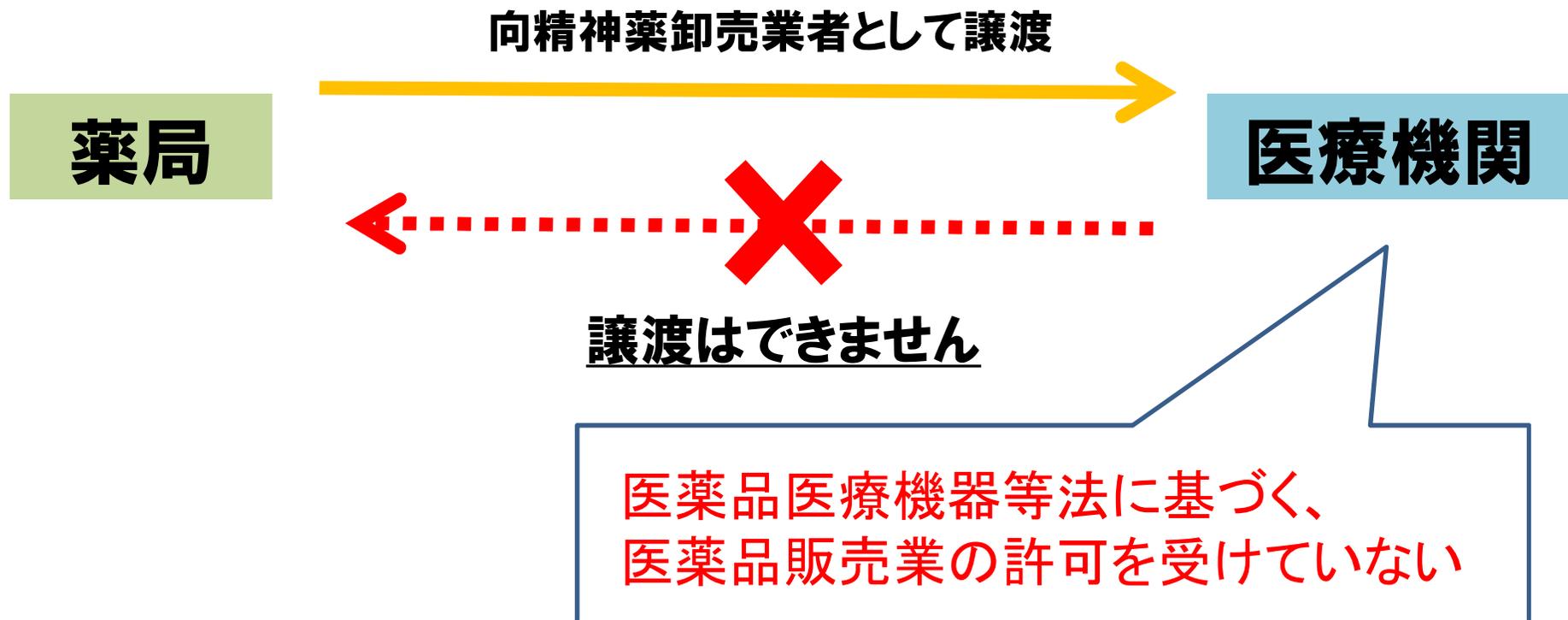
物質名	分類	構造
ジクラゼパム	第3種	
クロナゾラム	第3種	
フルプロマゾラム	第3種	

◎麻薬、麻薬原料植物、向精神薬及び麻薬向精神薬原料を指定する政令の一部を改正する政令の施行について (薬生発0908第1号)

施行日:令和3年10月8日

1 譲受け・譲渡し

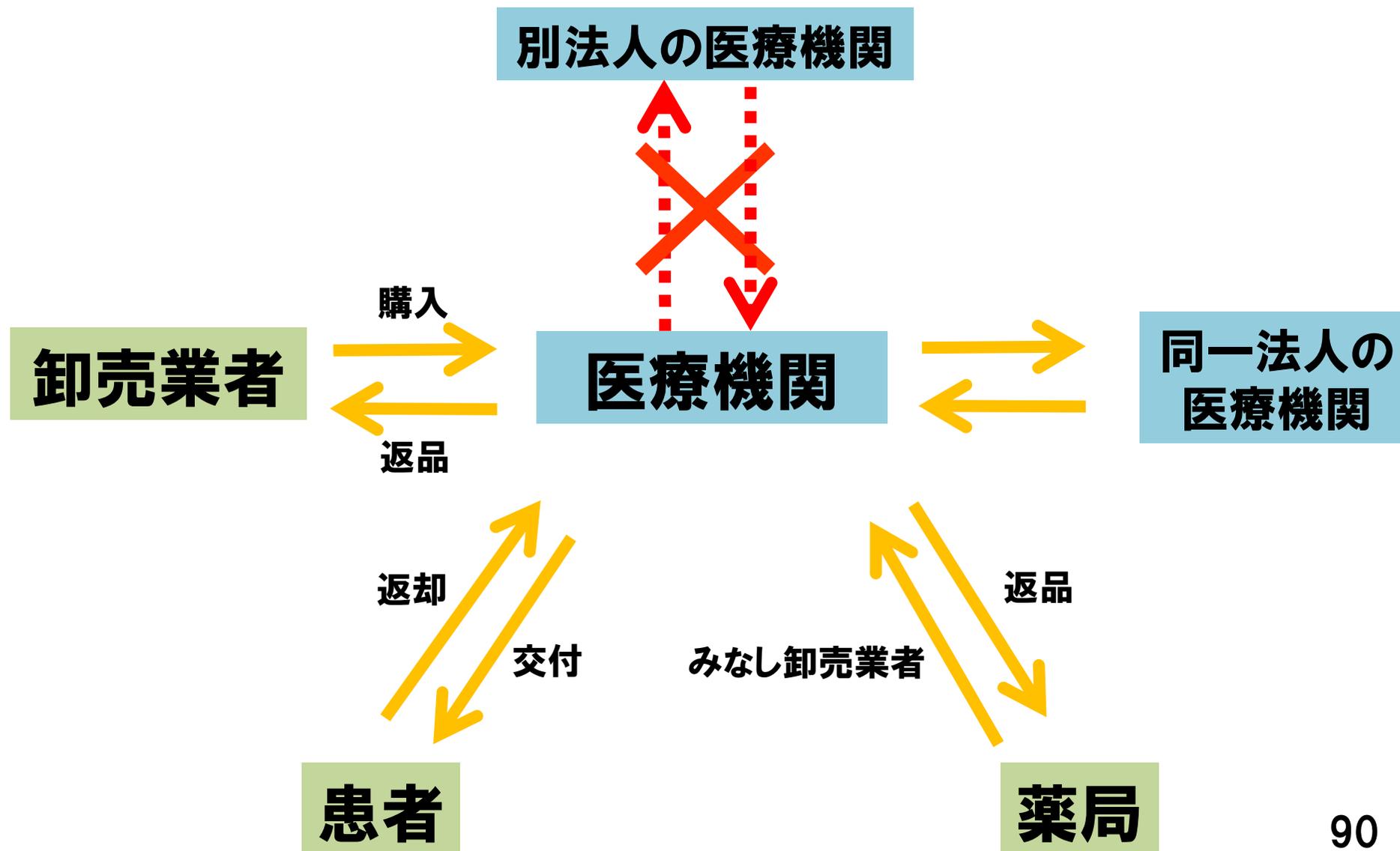
医療機関と薬局間の向精神薬の譲渡・譲受について (その他の医薬品も含む)



※ただし、医療機関が購入した向精神薬を向精神薬卸売業者へ返却することは可能です。

1 譲受け・譲渡し

医療機関における向精神薬の譲渡・譲受について



2 向精神薬の保管・管理

譲り受けた向精神薬は、次により保管すること。

- ① 人目のつかない場所に保管し、盗難の恐れのないよう鍵をかけるなどの措置をとる。
- ② 医療従事者が実地に盗難防止に必要な注意をしている場合以外は、鍵をかけた施設内で保管する。

【例】

- 調剤室や薬品庫で、夜間・休日など保管場所を注意する者がいない場合は出入口にも鍵をかける。
- ロッカーや引き出しに入れて保管する場合も、夜間、休日で必要な注意をする者がいない場合は、同様にロッカーや引き出し、あるいはその部屋のいずれかに鍵をかける。
- 病棟の看護師詰め所に保管する場合で、常時、看護師等が必要な注意をしている場合以外は、ロッカーや引き出しに鍵をかける。

3 向精神薬の事故

次の数量以上の滅失、盗取、所在不明などの事故が生じたときは、向精神薬事故届を知事に提出。

末、散剤、顆粒剤	100グラム(包)
錠剤、カプセル剤、坐剤	120個
注射剤	10アンプル(バイアル)
内用液剤	10容器
経皮吸収型製剤	10枚

※ODフィルム錠は錠剤にあたる

※**事故の状況**を管轄の保健所等に**届出**。

※上記以下の量であっても、盗取・詐欺等の場合は**警察署**にも届け出てください。

定期的^に在庫数量のチェック！



4 向精神薬の記録

譲り受けた第1種及び第2種向精神薬は、次により保管すること。

- ① 向精神薬の品名(販売名)・数量
- ② 譲受、譲渡、又は廃棄した年月日
- ③ 譲受又は譲渡の相手方の営業所等の名称と所在地

最終記載日の日から2年間保存

【注意】

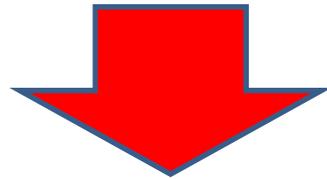
- 患者への向精神薬の交付、施用、患者に交付された向精神薬の返却、返却を受けた向精神薬の廃棄については、記録の必要はありません(施行規則第42条)。
- 同一法人の病院・診療所との間で譲受け又は譲渡しがあった場合も、記録する必要があるあります。
- 向精神薬が記載された伝票の保存をもって記録に代えることができますが、向精神薬が記載されていない伝票とは別に綴ってください。
- 第3種向精神薬については、記録義務はありませんが、譲受けについて記録し、定期的に在庫確認をすることが望ましいです。
- 同一薬局内の向精神薬小売業者としての記録と向精神薬卸売業者としての記録は別に保管が必要。

5 向精神薬の廃棄

- 向精神薬の廃棄：許可や届出は不要。
- 第1種及び第2種向精神薬→**廃棄の記録**が必要。
- 廃棄は、焼却、酸、アルカリによる分解、希釈、他の薬剤との混合等、回収が困難な方法で実施。

薬物乱用について

- 医療用医薬品の乱用
- 医薬品横流し(営利目的)
- 処方薬のインターネット等での密売



- これらをふまえ、取締が強化されている
- 医療機関、薬局等では、特に麻薬と向精神薬

医療用医薬品の乱用

対象症例は、2022年9月～10月に全国の有床精神科医療施設で入院あるいは外来で診療を受けた、「アルコール以外の精神作用物質使用による薬物関連精神障害患者」のすべて

表5: 全対象者の主たる薬物 (N=2468)

	度数	%
覚せい剤	1227	49.7
揮発性溶剤	123	5.0
大麻	156	6.3
コカイン	3	0.1
ヘロイン	1	0.0
MDMA	4	0.2
MDMA以外の幻覚剤	8	0.3
危険ドラッグ	34	1.4
主たる薬物 睡眠薬・抗不安薬	435	17.6
鎮痛薬 (処方非オピオイド系)	15	0.6
鎮痛薬 (処方オピオイド系:弱オピオイド含む)	15	0.6
市販薬 (鎮咳薬・感冒薬・鎮痛薬・睡眠薬など)	273	11.1
ADHD治療薬	14	0.6
その他	32	1.3
多剤	128	5.2

処方薬・医薬品については、治療目的以外の使用(乱用)

松本俊彦, 宇佐美貴士, 船田大輔, 沖田恭治, 榎野絵里子, 山本泰輔 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業) 分担研究報告書 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査 p103 2022

医療用医薬品の乱用

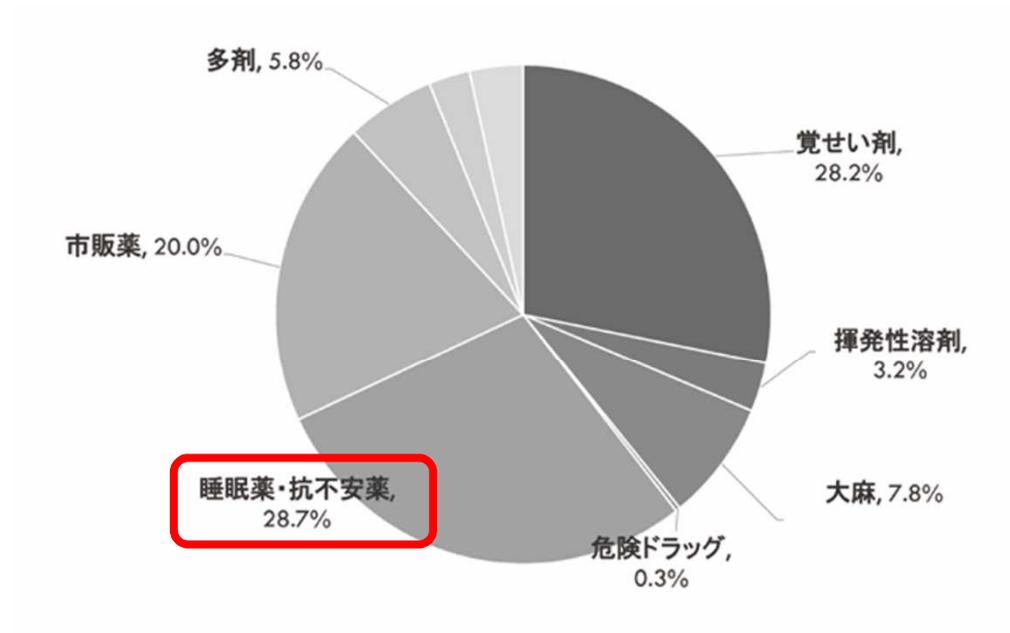


図5: 「1年以内に使用あり」症例における主たる薬物の比率

松本俊彦, 宇佐美貴士, 船田大輔, 沖田恭治, 榎野絵里子, 山本泰輔 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業) 分担研究報告書 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査 p134 2022

麻薬、覚醒剤原料、向精神薬の取扱いで不明なこと、困ったこと等があった場合は、業務所を管轄する保健所等まで連絡してください。

所属名	電話番号	所轄区域
東部保健所	0977-67-2511	別府市、杵築市、日出町
東部保健所 国東保健部	0978-72-1127	国東市、姫島村
中部保健所	0972-62-9171	臼杵市、津久見市
中部保健所 由布保健部	097-582-0660	由布市
南部保健所	0972-22-0562	佐伯市
豊肥保健所	0974-22-0162	豊後大野市、竹田市
西部保健所	0973-23-3133	日田市、九重町、玖珠町
北部保健所	0979-22-2210	中津市、宇佐市
北部保健所 豊後高田保健部	0978-22-3165	豊後高田市
薬務室	097-506-2650	大分市

適正な使用・管理をお願いします。